

マハーバーラタ 研究の最前線

— 伝承の形成と物語の展開 —

『マハーバーラタ』の
口頭伝承的特徴について
高橋 健二 (東京大学大学院助教)

『マハーバーラタ』に描かれた
王権儀礼の特徴
手嶋 英貴 (龍谷大学教授)

古代インド叙事詩の神器戦に
おける記憶と呪句の役割
川村 悠人 (広島大学大学院准教授)

ヴィシュヴァーパ物語の伝承と変容
堂山 英次郎 (大阪大学大学院教授)

2024

3/26 (火)

13:00~17:40

京都大学人文科学研究所
4階大会議室

参加無料

会場・オンライン 同時開催



事前参加登録をお願いします。

参加登録の締切り日までに、下記のURLにアクセスし、申込フォームを入力・送信してください。



締め切り日 **3/24 (日)**
◀こちらから登録できます

お問い合わせ：龍谷大学・手嶋 英貴
mail: a21016@mail.ryukoku.ac.jp

[主催] 京都大学人文科学研究所共同研究班「インドにおける「循環的存在論」の形成——祭祀思想から哲学への発展を中心に」(班長：手嶋英貴)

[共催] 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))

- 「ヴェーダ文献における言語層の考察とそれを利用した文献年代推定プログラムの開発」(研究代表者：天野恭子 課題番号：21K00004)
 - 基礎研究 (B) 「マイトラーヤニー・サンヒター研究の基礎資料 (校訂本・翻訳) の完全整備」(研究代表者：天野恭子 課題番号：19H01192)
 - 基礎研究 (C) 「ガナパティ派ブラーナ聖典における救済論の研究」(研究代表者：井田克征 課題番号：23K00056)
 - 基礎研究 (C) 「ヴェーダ文献における祭主の規定から読み解く古代インドの社会倫理」(研究代表者：大島智晴 課題番号：23K00046)
 - 基礎研究 (C) 「アームナーヤマンジャリ」梵蔵バイリンガル写本に基づくインド密教注釈文献の研究」(研究代表者：菊谷竜太 課題番号：19H00055)
 - 基礎研究 (C) 「ヴェーダとタントラの相互影響：南インド現地調査と文献調査に基づく総合的研究」(研究代表者：手嶋英貴 課題番号：19H01195)
 - 基礎研究 (C) 「インドとは何者か?：古代インドの英雄神に関する総合的研究」(研究代表者：堂山英次郎 課題番号：20K00051)
 - 基礎研究 (C) 「インド古典から日本古典へのもう一つの道：東南アジアを経由する文学の流れを探る」(研究代表者：中村史 課題番号：21K00450)
 - 基礎研究 (C) 「ヴェーダ祭祀の祭官選任儀礼に見る古代インド階層社会の形成」(研究代表者：西村直子 課題番号：21K00046)
 - 若手研究 「後期不二元論学派における救済論体系の研究」(研究代表者：眞鍋智裕 課題番号：21K12843)
 - 若手研究 「近代以前のヒンドゥー教の諸相—聖地と聖地巡礼の発展史から」(研究代表者：虫賀幹華 課題番号：23K12023)
- (以上、代表者名50音順)



『マハーバーラタ』の 口頭伝承的特徴について

高橋 健二 (東京大学大学院助教)

『マハーバーラタ』は吟遊詩人の間の口頭伝承であったものが、しだいに写本に筆写されるようになったと考えられる。本発表では、『マハーバーラタ』のどのようなテキストのどこにどのようにして口頭伝承的特徴が現れるのかを分析し、叙事詩文献の伝承方法とヴェーダ文献の伝承方法との間にどのような連続性・非連続性が見られるのかを考察する。

『マハーバーラタ』に描かれた 王権儀礼の特徴

手嶋 英貴 (龍谷大学教授)

『マハーバーラタ』第14巻は、ユディシュティラによる大規模な王権儀礼「馬祀祭(アシュヴァメーダ)」挙行の様子を詳しく描写している。文学的誇張は随所に見られるものの、そこには正規のヴェーダ聖典が述べる馬祀祭の実行規定をつぶさに参照した跡が窺える。本発表では、そこに描かれた儀礼の特徴に注目し、『マハーバーラタ』の作者たちがどのヴェーダ聖典ないしその伝承流派に近しかったかを考えたい。

第10回シンポジウム **ブラフマニズムとヒンドウイズム** — 南アジアの宗教と社会の連続性と非連続性

『マハーバーラタ』研究の最前線 — 伝承の形成と物語の展開 —

2024 **3/26** (火) 13:00~17:40

京都大学人文科学研究所
4階大会議室

京都市左京区吉田本町
詳しいアクセスはこちらから▶



参加無料 会場・オンライン 同時開催

お問い合わせ：龍谷大学・手嶋 英貴
mail: a21016@mail.ryukoku.ac.jp



■ タイムテーブル

13:00	開会
13:00-13:10	手嶋 英貴 (導入説明)
13:10-14:00	高橋 健二
14:00-14:50	手嶋 英貴
14:50-15:00	昼休憩
15:00-15:50	川村 悠人
16:00-16:50	堂山 英次郎
16:50-17:00	小休憩
17:00-17:40	ディスカッション (指定コメントータ：水野善文)
17:40	閉会



古代インド叙事詩の神器戦における 記憶と呪句の役割

川村 悠人 (広島大学大学院准教授)

インド叙事詩において英雄たちは通常の武器だけではなく神々の武器を駆使して多彩な戦いを繰り広げる。本発表では、ヴェーダ文化との比較のもと、そのような神器戦において英雄たちの「記憶」と「呪句」が果たす役割を明確にしつつ、諸先行研究に散見される誤解を正す。

ヴィシュヴァルーパ物語の 伝承と変容

堂山 英次郎 (大阪大学大学院教授)

三頭の魔物ヴィシュヴァルーパを英雄(神)が退治する物語は、古くはリグヴェーダに遡り、複数のヴェーダ散文、さらには叙事詩やプラーナにおいても多くの変種あるいは変容を示す。本発表では、『マハーバーラタ』が伝える同物語が、ヴェーダ文献のどの伝承に基づき、それをどのように解釈・発展させていったかについて、考察を試みたい。